

(Dep. Parasitol., Fac. Med., Aichi Med. Univ.)

感覚毛基部は、角皮の最外層が窪んで形成されたポケットの中で盛り上がる台座の表層に存在する。感覚毛基部は $0.7\mu\text{m}$ 、中心部には $0.4\mu\text{m}$ の低電子密度部がある。基部から下部に向かい中電子密度の繊維束が延びている。台座外層は角皮と連続し高電子密度の硬質部が見られる。感覚毛基部周辺と台座下面は硬質化することなく細繊維が表層を張りめぐらる。台座側面から下部は高電子密度で不規則な角皮と同一構造物が不連続に存在し、これらが台座の下部を支える。台座に核は存在しなが、グリコーゲン顆粒を持つ細胞の一部が見られる。台座下部は開口し、細管を有す神経樹状突起が下部と接する。台座上部には $1.8\mu\text{m}\times 0.9\mu\text{m}$ の高電子密度の細繊維の集合体(内部の細繊維は約 $460\text{\AA}$ で膠原繊維様)が見られ外部の神経細胞と繊毛で連絡していると思われた。

**ツツガムシ標本の作成法** 鈴木 博(長崎大・熱研) Mounting method for trombiculid mite.  
H. Suzuki (Inst. Trop. Med., Nagasaki Univ.)

恙虫は普通ガムクロラルを封入剤として作成する。虫体の透徹と各脚を伸張させる目的で、スライドガラスを軽く熱するが、虫体が気泡と共に移動して複数の虫体を同一のスライド内で作成するとその位置が散在し鏡検に時間を要する。そこで、多くの虫体を同一の位置に固定できる方法を考案した。一滴の封入液をスライドガラスの中央に滴下し、この中に数十匹の虫体を入れ、一列或いは数列に並べた後、周囲のガムクロラル液をL字型に曲げた針で薄くのばし、カバーガラスをかけると虫体はその位置に固定される。この状態で $40^{\circ}\text{C}$ のホットプレートに約10分放置した後、2-3回軽く熱して標本は完成する。この方法は鏡検の際の作業効率を高める上で有用と思われる。

**室内塵中ダニの採集方法と収量** 武田富美子・當間孝子・宮城一郎(琉球大・医・環境保健) The way of collecting and the quantity of house dust mites. F. Takeda, T. Toma and I. Miyagi (School Health Sci., Fac. Med., Univ. The Ryukyus)

布団に $1\text{m}^2$ あたり30秒で掃除機をかけた場合、吸い込み仕事率 $340\text{W}$ の掃除機(東芝)に対して、 $230\text{W}$ および $500\text{W}$ の掃除機(いずれもサンヨー)で採取したダニ数に大きな違いはなかった。布団について、上記3種の掃除機のいずれを使用しても30秒まではダニ数が急激に増加し、30秒で2分までのダニ総数の60%を越え、その後緩やかに増加した。また $340\text{W}$ の掃除機の場合、畳・毛布も30秒までダニ数が急激に増加したが、絨毯では直線状に増加がみられた。また、*Dermatophagoides* 属、*Tarsonemus* 属、その他にダニを分類した場合、布団・畳・毛布についてはサンプリング時間によってその割合に大きな違いはなかったが、絨毯は大きな変化がみられる場合もあった。

**ダニ・アレルギーのある難治型アトピー性皮膚炎患者宅のダニ相検査結果** 岩脇明英(MBAダニ研究所)・中山秀夫(中山皮膚科クリニック)・高岡正敏(埼玉衛生研究) Mite fauna of the homes of severe atopic dermatitis patients who were hypersensitive to *Dermatophagoides*. A. Iwaki (MBA Mite Invest. Inst.); H. Nakayama (Nakayama Dermatol. Clin.) and M. Takaoka